

都城市議会議長 様

提出日 令和6年10月21日

氏名 江内谷 満 義

視 察 報 告 書

以下のとおり、研修の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

会 派 令和創生

視察者 江内谷満義 別府英樹 岩元弘樹 楠見千穂子

2 視察先・テーマ及び日時

○ 令和6年10月7日（月） 14：10～17：00

岡山県美咲町役場 「人口減少に対する取組みについて」

○ 令和6年10月8日（火） 9：50～11：00

岡山県奈義町しごとえん 「官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について」

○ 令和6年10月8日（火） 12：50～15：30

岡山県奈義町役場 奈義町現代美術館 なぎチャイルドホーム
「少子化対策について」

○ 令和6年10月9日（水） 10：20～12：30

兵庫県神戸市人と防災未来センター
「大規模災害に対する備えについて」

3 視察の内容

岡山県の中央部に位置する美咲町は、「賢く収縮するまちづくり」というユニークな取り組みをすすめている町。2005年（平成17年）に、3つの町が合併して誕生した美咲町は、人口減少や高齢化といった課題を抱えていました。

合併時の人口は、約1万6,500人であったが、20年経った今では、1万3,000人で、丁度合併した1つの町がなくなったという状況に。

合併20年でこうなり、あと10年後には、社人研の予測よりも早く人口減少がすすんでいくという状況であった。

そのような時期の、2018年（平成30年）に、新町長に就任した「青野高陽町長」が取り組んだ「賢く収縮するまちづくり」の取り組み内容を視察。

《視察に至った経緯は》

今年5月末、東京で開催された「自治創造学会」の研究大会に会派4名で参加、「青野町長」の講話を聴く機会があり、その取り組みの内容について大きな関心を抱いたものであった。今回、現地に出向いて、その取組を研修したい、の想いで視察になったもの。

青野町長は、就任早々人口減少が急激に進む中で、「まちの、今後のまちづくり」に着手。岡山県議の経験3期を経験はあるものの首長の経験は初めて。

着任後、幹部職員に町の「総合計画は」と尋ねると「そんなもんは、とっくに期限が切れて、もうありません」との答えにビックリ。町の人口減少は、加速度的にすすみ、10年後には8千人と、社人研の予測。そのような町の状況からのスタート。お先真っ暗ななかで、「それに、見合ったまちづくり」の取組みの始まりだったと町長。

当時の美咲町をとりまく社会

- ・美咲町の普遍的課題
 - 1 少子高齢化
 - 2 人口減少
 - 3 財政規模の縮小
- ・美咲町がすでに直面している課題
 - 1 担い手不足
 - 2 若者・女性の流出
 - 3 公助の限界
 - 4 地域自治の限界
 - 5 地域課題の重複・深刻化

人口規模、面積等大きな差はあるが、都城市とも、ほぼ同じような状況

そのような合併時の状況が、今でもそのまますすんでいる。

そこで、従来の「成長」を、追及するまちづくりでなく、限られた資源を有効活用し、持続可能な発展を目指す「賢く収縮するまちづくり」を掲げました。

昭和から平成にかけて、国は「ハコモノ」を推奨。令和は広げた風呂敷をいかにたたむかの時代。「次は何を建てようか」から「何を壊そうか」の時代になってきた。人口減に見合った大きさに、まちをつくり変える時代の方向に転換。

《最近取り組んだ主な事業》

- ① 町内の小・中学校が合併して「小中一貫校」の取組み。旭学園は令和2

年度から開校。1年目は多少のとまどいもあったが、2年目は学力テストでは、ほとんどの学年が県平均を上回るなど、落ち着いた状態である。同じく小中一貫校の棚原学園は、開校5年前から、乗り入れ授業など、事前準備も実施したりして備えたもの。現在学力が岡山県内でトップクラスを推移しており合併効果が見られている。

② 温泉の廃止

公共施設の見直しの一環として「温泉施設の廃止」を決断。

年間1,500万円から2,000万円の赤字経営の状況。65歳以上の入場料は250円。計算してみると入場者一人当たり町が、1,000円を付けて入っておる状態。今後、老朽化による大きな修理や指定管理料等も鑑み、苦渋の温泉廃止の決断。

事前の議会サイドの「全員協議会」では、了解は得ていたものの、後日住民側の猛反発の反対署名運動も始まったことも。

“これは、健康と福祉のための温泉だ。観光施設じゃない”と「町長はやめろ」の声も。町内に大きな反対運動もあったが、“廃止”と大きな決断。

③ 美咲町庁舎の建替

建設単価を引き下げするため「ドラッグストア並みの、倉庫に毛が生えたような庁舎を作りたい」と、計画。

今、建設中（令和6年度）の建物について、

住民から「今、倉庫を建設しているのか」とか、

「庁舎を作るための、仮の建物か」などの風評もあったところ。

50年くらいに一度建て替える庁舎の建設に、当時の首長としては、それなりの建物を造りたいという思いはあったが、「苦しい決断」と町長。

以上、美咲町の人口減少、それに伴う税源不足の対応を述べました。

（今回の視察研修時を中心に述べたが、5月の講演時の内容も一部重複あり）

4 視察の感想

平成17年に、近隣の3町で合併。人口約1万6000人でスタート。

20年経った今、人口約1万3000人の町へ。今後も人口減少が進んでいく厳しい中での、町長就任、町政を任された「青野高陽」町長の取組であった。まだ6年足らずの取組みで、その必死な取り組みに感動を受けました。

都城市と規模は違うが、同じような課題は、共通するものがたくさんあると受け止めました。

特に、美咲町の公共施設の「温泉の廃止」は、苦しい決断のひとつであったとの事。徹底した見直しは、何事も見逃すことのできないもの。

「今では、苦勞話ですが」との事であったが、その決意について、当時の取組みの情熱、まちの将来を考えての首長の行動に胸を打たれた。

5 視察の成果及び市政への反映等について

研修を終え、美咲町に比べて本市の、今後の人口減少の対策は、まだ大きな希望があると感じた。

「ふるさと納税寄付金」の有難さも、つくづく感じたところ。しかし、寄付金はいつまで続くか不透明のもの。今、体力のある内に、公共施設等の見直しを取り組む必要性も感じたところ。

今後の、全国の自治体の地域間競争はますます激化するもの。

追い込まれない内に、取り組む必要性を強く感じた、今回の視察研修でした。市政の発展のため、しっかりと取り組むことを強く思いました。

6 添付資料



提出日 令和6年10月20日
氏名 別府 英樹

視 察 報 告 書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

会 派 令和創生

視察者 江内谷満義 別府英樹 楠見千穂子 岩元弘樹

2 視察先・テーマ及び日時

○ 令和6年10月7日(月) 14:10~17:00

岡山県美咲町役場 「人口減少に対する取り組みについて」

○ 令和6年10月8日(火) 9:50~11:00

岡山県奈義町奈義しごとえん 「官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について」

○ 令和6年10月8日(火) 12:50~15:30

岡山県奈義町役場、奈義町現代美術館、奈義町立図書館、なぎチャイルドホーム
「少子化対策について」

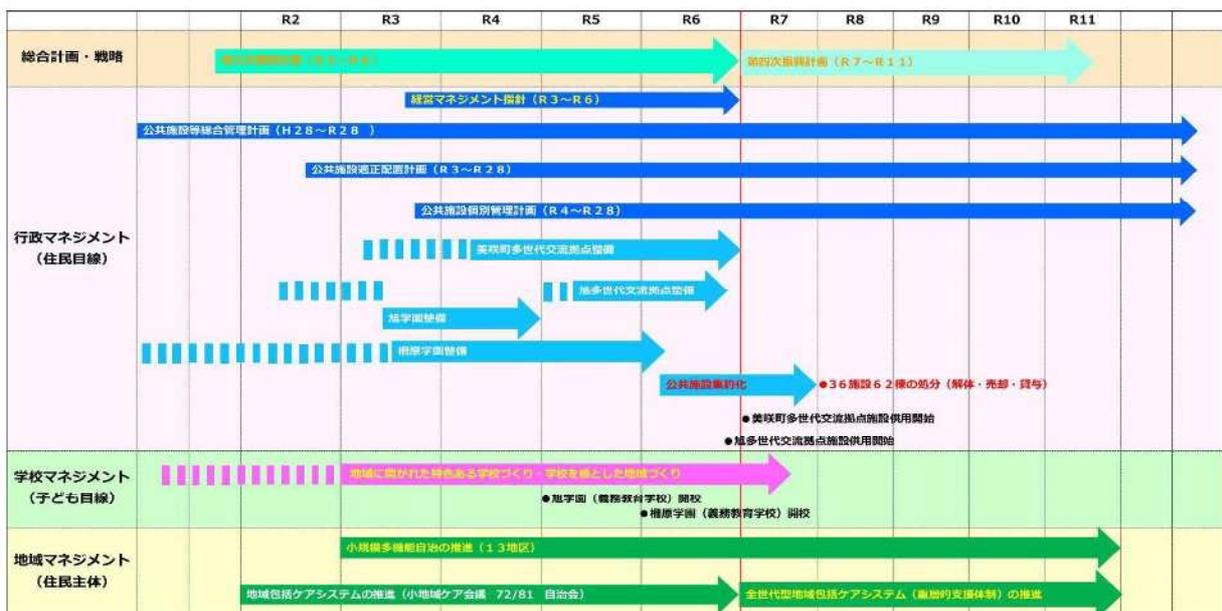
○ 令和6年10月9日(水) 10:20~12:30

兵庫県神戸市人と防災未来センター 「大規模災害に対する備えについて」

3 視察の内容

(1) 岡山県美咲町役場 「人口減少に対する取り組みについて」

まちづくりの事業概要



3つの町を合併したため多くの重複する公共施設（公共施設の床面積が全国平均の2倍以上）が出てきた。これらを整理統合しなければ、今後莫大な維持管理費（今後40年間、毎年11億円）がかかり続けるため、3つの項目（行政、学校、地域）に分けて、人材やリソースを管理、統合することに着手した。

しかし、ただ収縮（シュリンク）するだけでは、町民の生活が不便になるだけであることから
 ①壊すもの ②残して充実させるもの ③統合して充実させるもの
 の3つの視点で賢く収縮（スマートシュリンク）することを進めてきた。

①に対する住民の反発は激しく、町長も大変責められたようだが、「事実を伝える（ウソをつくことをやめる）」、「繰り返し繰り返し伝える。」ことを通して、住民説明会でも最後まで残って、膝を交えて話し、イスの片付けなども一緒にしながら進めてきた。

※「ウソをつく」 例：延べ〇〇〇人だが、実態は、わずか〇人が繰り返し使っていただけの施設など

施設名		活用方針（業）	NO	地域	施設名	活用方針（業）
美咲町役場	本庁舎	①解体後、加美地区コミュニティセンター整備	39	種原	種原中学校	校舎
	教育委員会庁舎	②解体後、分譲地等整備	40			技術棟
	倉庫		41			倉庫・配膳室
	第一分庁舎	民間企業等へ売却	42			体育館
	第二分庁舎	解体後、分譲地等整備	43			ランチルーム
美咲町地域活性化センター	解体後、道路及び隣接所有者へ売却	44	種原学園	種原西小学校	武道館	
ふれあい福祉本部ビル	解体後、駅前駐輪場整備	45			プール	
美咲町立中央公民館	公民館・図書館				46	校舎
	調理室				47	体育館
厚生小学校体育館	便所・倉庫	社会福祉法人等へ売却			48	ランチルーム
わかき保育園			49	プール		
農産物加工処理場施設	解体後、土地は所有者へ返却		50	クラブハウス		
三保公民館	三保公民館新築後、解体。跡地は駐車場		51	種原東小学校	校舎	
西草公民館	三保公民館新築後、解体。跡地は駐車場等		52		体育館	
			53		プール	
	校舎		54	種原児童館	解体後、跡地を民間企業等へ売却	
	調理室				解体後、跡地は地区グラウンド	

②としては、小中学校を統合して、義務教育学校として開校した「旭学園」「柵原学園」がある。岡山大学や吉備国際大学の教授を委員長、講師、指導者として教育課程の編成、地域学校共同活動、英語教育、探求的な学習などの基盤を固めた。

柵原学園（義務教育学校）



柵原中学校、柵原西小学校、柵原東小学校を統合した。



③としては、廃校を複合施設として再活用した右図のような例や町役場を建設してその周辺に図書館、公民館、保健センター、物産センターを集めた例などがあげられる。ただ、建設コストを下げるために、壁材や内装などは極端に安価なものを使用したが、10年ごとに塗装するなどして長寿命化を図る工夫もしていた。また、図書館などは、蔵書数ではなく、実際に活用されている本に限定し、住民の誰でも集える居場所スペースを作るなど多くの工夫をした。



美咲町多世代交流拠点施設“みさキラリ”

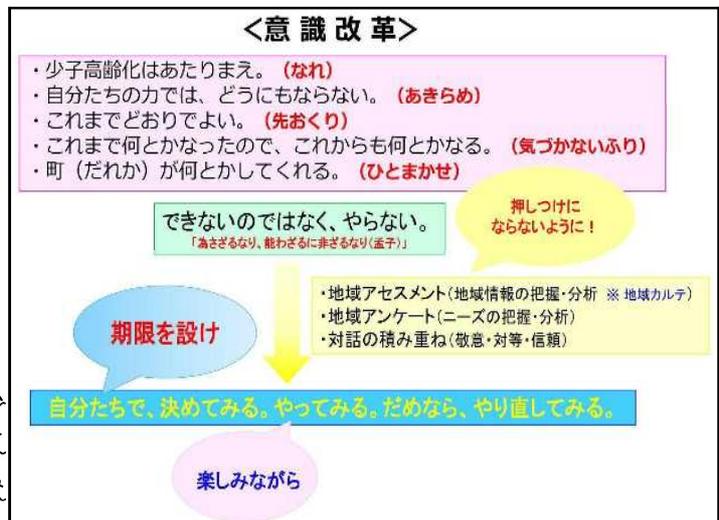


また、地域マネジメントとして小規模多機能自治に取り組んでいる。人口の増加は見込めない
ので、人交(じんこう)の増加をめざし、人と人とのつながりを重視する方向に舵を切った。つまり、
地域が「元気だ」とか「明るい」、「力がある」と言われるのは、人口が多かったり、人口密度が高
かったり、若い世代の比率が高かったりするからではなく、人との交わり(ひとづきあい)の密度が
高いからであるという信念のもとに地域を再構築していった。

まずは、これまでの自治会の問題点を洗い出した。

- ① 会合への出席は世帯主が多い。
→ 高齢男性の発想で決まりがち
- ② 会議内容が家族に伝わりにくい。
→ 女性・若者の意見が伝わりにくい。
- ③ 代表者が輪番制・短期間で交代
→ 新しいことに取り組みにくい
- ④ 責任が集中する。
→ 代表者に責任が集中しがち

そして、右図のような意識改革の視点を町民にもたせ、話し合い、アンケートを
通して地域の課題を洗い出し、「地域み
らい計画」を作成していった。



小規模多機能自治の展開



「行政は、**やってくれない**」から「行政は、**やらしてくれない**」へと地域は変化していく

現在の小規模多機能自治での活動の様子の一部である。

倭文西まちづくり協議会

先進地視察(交流)

倭文西役員7人で、上加茂地区住民自治協議会(津山市)を視察。倭文西の現在の活動に大きく参考になっている。(現在も交流が続いている)



独居高齢者・高齢夫婦世帯・支援者・空き家・過去に災害のあった場所・救急車の進入困難路など地域の情報が書き込まれた地図



地図ワークによる活動
テーマに合わせ、参加者全員で地域の情報を出し合い、地図に落とし共有・確認

地域の課題を地図上に見える化し、皆さんで共有している。

打穴協働のまちづくり協議会



地域住民全員アンケート

地域住民全員(中学生以上)を対象に手作りアンケート調査を実施。地域住民の声を聞くところから始めました。



やってみん会“打穴”

アンケート結果から自治会の枠を越えた広域的な話し合い



アンケート集計 & 結果共有会

みんなで協力したアンケートの集計作業
アンケート結果を、地域住民で共有。
広域的な話し合いの場「やってみん会“打穴”」へ発展。



専門部会

「草刈り,鳥獣害,農業部会」「福祉,防災,見守り部会」「資源(人材)活用,子供部会」に分かれて、課題を深く掘り下げている。



中学生以上を対象とした手作り住民アンケートの結果をもとに、いろいろなことをやってみようという結果になり、一人に責任が集中しないように部会を作り対策を練っている。

打穴協働のまちづくり協議会



高齢者スマホ教室
手始めに、出来ることから
始めました。



男性料理教室
意外と楽しかった。



獣害対策
専門家の協力を得て、獣害対策講習会
ヌートリア対策の実施！



**刈払い機講習会
& 合同草刈り実践**



自治会の枠を越えて、協力体制の強化

その後、「スマホ教室」「料理教室」「獣害対策」「ビーバー講習会」などを実施し、地域課題の解決に取り組んでいる。

町がDXのために予算を出すと言っても費用対効果を考えたとき、今はまだ黄色い旗で済ませた方がいいので予算は不要だとか、お祭りの予算を政(まつりごと)の予算として活用するという方向に考え方が変わってきている。

(2) 岡山県奈義町奈義しごとえん 「官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について」

奈義町に入るとすぐの場所に廃業したガソリンスタンドの一角に「しごとえん」はあった。そんなに広くない建物の中は、目的に応じていくつかの区画に区切られていた。その一つの区画で、元市議会議員でしごとえんの責任者をしている桑村氏から説明を受けた。

奈義町には「人口を維持」という大きな目標がある。その表現に向けて欠かせないのが「仕事」である。

「ちょっとだけ働きたい人」と「ちょっとだけ手伝ってほしい人」、聞き取り調査から見えたこの二つの声に注目し誕生した、好きな時間に気軽にできる、地域型のワークシェアリングである。

2016年 まちのしごと調査「奈義町まちの人事部」

2017年 社協から人材センターを分離

2019年 しごとえんに業務を引き継ぐ

2020年 現在の事務所が完成

2023年 岸田総理来訪

市の委託(1500万円)を受け、令和5年度は純売上高5600万円、売上純利益2500万円

純売上高内訳:町業務1452万円、町作業1160万円、企業作業470万円、個人作業850万円



○ 仕事の内容

しごとえん内作業～封入、仕分け、パック詰め、書類修正、棚卸し補助、食品の真空パック 等
しごとえん外作業～清掃、配本、農作業、墓掃除、伐採・剪定、草刈り、草取り、耕運 等
事務～文字起こし、データ入力、デザイン・印刷代行、資料作成、アンケート・郵便物集計 等

○ しごとえんで仕事をするまで

(しごとえんのメンバー登録)

- ① 説明をうける
- ② 基本契約書の作成(個人面談を通して)
 - ・ どんな仕事をしてきたか。
 - ・ やりたくない仕事は何か。
 - ・ パソコンのスキルチェック
- ③ LINE への登録
- ④ お仕事情報待ち

(しごとえんが仕事を受託し、登録者に仕事を依頼し、その仕事が終了するまで)

- ① しごとえんに仕事の依頼がある。(役場から回されてくることが多い。)
- ② ヒヤリングしたり現場確認をしたりして、仕事内容をしっかり確認する。。
- ③ 契約書、発注書を作成する。
- ④ 仕事のメンバーを募集する。希望が多いものは LINE で、希望が少なそうなものは電話で。
- ⑤ 仕事によっては、事前研修を受ける。
- ⑥ 仕事をする。
- ⑦ 仕事の振り返りをする。
- ⑧ 仕事の依頼先に請求書を送付し、本人に報酬を支払う。

現在330人が登録していて毎月40人～50人に賃金支払いをしている状況である。それぞれが個人事業主として個人で保険にも加入する。しごとえんでも最小限の保険には加入している。

○ しごとえんで働く人たちの様子

自分のもつ技能や趣味を生かしながら責任を持って仕事をこなしている。そのことが、地域貢献にもつながると自分の役割を見いだせてやり甲斐を感じているようである。家にじっと一人でいるよりも、自分のできる仕事を見つけて外に出て、無理のないペースで働きながら地域の人たちとの交流を楽しんだり、外には出られなくても自宅で黙々と、あるいはテレビを見ながらのんびりとできる作業をしたりしている。



袋の花米封入



折込・封入



稲むら結束



郵便物集計



ママと一緒にしごと



こもりの様子



スマホ教室



工房内清掃

(3) 岡山県奈義町役場 他 「少子化対策について」

○ 切れ目のない経済的支援

- ① 出産祝い金10万円、保育料多子軽減、18歳まで
- ② こども園・小中学校の給食費の無償化
- ③ 小中学校の教材費の無料化
- ④ 高校生までの医療無料
- ⑤ 大学生に町独自の小学育英金、卒業後に町への定住で全額返済免除
- ⑥ 特定不妊治療に対し年額20万円を助成
- ⑦ 在宅育児をする保護者に毎月15000円の支援金
- ⑧ 高校生への就学支援として年額24万円の支援金
- ⑨ 中3までのこどもを育てる一人親に年額54000円、第2子以降は一人27000円加算
- ⑩ おたふく、インフル予防接種の助成

○ 伴走型の産前産後のケア

奈義町子育て応援宣言

子ども達は次代を担うかけがえのない存在で、奈義町を守り支えてこられたお年寄りとともに、奈義町の大切な宝物です。その子ども達が夢と希望を持ち健やかに育つことは、奈義町の未来であり奈義町の希望です。

子どもを産み育てやすい環境をつくり、健康で心豊かなたくましい人に育てることは、わたしたち町民みんなの大切な使命であり、この取り組みをいっそう推進し、奈義町に住めば子育てが安心、奈義町は子育てがしやすいまち、との声が全国に広まることを目指します。

そのため、行政の役割を自覚し奈義町として子育て支援にいっそう力を入れ、「子ども達の元気な声と笑顔が溢れ子育てに喜びを実感できるまち」、「家庭・地域・学校・行政みんなが手を携え地域全体で子育てを支えるまち」を目指し、ここに「奈義町子育て応援宣言」を行います。

平成24年4月1日
岡山県奈義町



地域と行政につながる伴走型の産前産後のケア

保健師による手帳交付時の面談等
⇒悩み相談、子育て支援サービスの紹介
妊娠中の方、親等の子育てに関わる方を対象
「子育て相談日」を毎週実施

きずなメールによる情報配信
⇒産前産後、育児に必要な情報をプッシュ型で配信。健診情報や各種イベント等、子育て支援情報を提供

産前産後のカウンセリング
⇒心理士による産前産後うつ防止のための定期的カウンセリングを希望者へ実施

母乳相談
⇒産後1年未満の産婦で、母乳育児等について相談支援が必要な方に助産師が無料で訪問（回数制限なし）

産後ヘルパー
⇒就園前までのこどもがいる方で、簡単な家事などの支援を希望される方に地域団体の生活支援サポーターが訪問（30分250円）

産前

プレよち広場【令和6年度新規事業】
⇒妊娠中の過ごし方、出産、産後の育児について学べる機会を妊娠期に提供（助産師や栄養士による講座）
子育て拠点施設「なぎチャイルドホーム」で実施

子育て適応包括支援尺度（CPRA）を活用した個別支援
⇒大阪大学との連携事業
町が保有する母子保健情報を基に「生涯1000日見守り研究」を実施。産後うつ予防への効果を期待

産

産後

保健師・地域の愛育委員による新生児全戸訪問
～子育て家庭と地域とのつながりを醸成～

●「こんにちは赤ちゃん訪問」事業
生後4か月を迎えるまでの乳児がいる家庭を対象に、各地域の愛育委員がプレゼント（よだれかけ・おしりふき）を持って訪問し、声かけや見守りを行う

●「ちいちゃい命ふれあい体験」
小学校5・6年生の希望者を対象に命の大切さを知ってもらうため、赤ちゃんとふれあう機会の提供



P.19

生後4ヶ月を迎えるまでの乳児がいる家庭を対象に各地域の愛育委員がプレゼント（よだれかけ・おしりふき）を持って訪問し、声かけや見守りを行うところに特徴がある。

○ 地域と子育て拠点施設「なぎチャイルドホーム」

子育て世代が気軽に通える施設として開放している。常駐する「子育てアドバイザー」に育児に関する相談にのってもらったり、子どもの社会的経験の場となるような活動を行ったりしている。

また、「病院に行く間、子どもを預かってほしい」「買い物に行く時間だけ子どもを見てほしい」などの場合に、地域の子育て援助会員に子どもの一時的な預かりをしてもらったり、保護者と保育士が毎週火～金曜に当番制で子ども達の面倒を見ながら、遊びや活動を行い、親同士の交流の場にもなっている。親子向けのイベント（助産師や心理士との座談会、リトミック、三世代交流会、父親クラブ）なども行っている。

- 有効な少子化対策は何か
 - ① 子育てや教育にお金がかかりすぎることの解消
 - ② 育児の心理的、肉体的な負担感の解消
 - ③ 子育ての孤独、孤立の解消

これらの支援策を考えた結果がこれまで記述した奈義町の施策である。

- 人口を維持するための4つの基本
 - ① 「しごと」をつくり、安心して働けるようにする。
 - ② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える。
 - ③ 新しい「ひと」の流れをつくる。
 - ④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域が連携する。

(4) 兵庫県神戸市人と防災未来センター 「大規模災害に対する備えについて」

4人での視察だったが、2時間以上も二人の担当者が館内を案内してくださった。

- 阪神淡路大震災で何が起きたのか、その結果どんな状態になったのか、その後立ち直るためにどのような道のりがあったのかについてプレゼンを使っての説明
- 大型スクリーンを使って、阪神淡路大震災が起きたときの様子を追体験するための1.17シアター～恐ろしくなるような大音響とともに、阪神淡路のいろいろな場所で建物や道路などが次々と破壊されていく様子を目の前で追体験する。
- 大震災ホール～復興に至るまでのまちと人を、直面する課題とともにドラマ仕立てで紹介する15分程度のドラマ映像
- 東館では、地震以外の自然災害に関する展示や体験コーナーがあった。



4 視察の感想

今回視察した美咲町が人口13,000人、奈義町が5,700人であり、都城市と比較すると10分の1、30分の1という小さな小さな町である。そんな町で行われている「人口減少に対する取り組み」「少子化対策」について、東京での学会で町長自らその取り組みを紹介され、とても興味・関心を持ったので、実際の取り組みを見てみたいと思い、会派で実際の現場を視察に出かけた。また、南海トラフ大地震が2035年±5年に起きると言われている。これに対する備えとして何が本当に必要なのかを知りたいと考え、国内で一番大きな研修施設である「人と防災未来センター」で研修することにした。

まず、美咲町は、平成17年に中央町、旭町、柵原町の3つの町が合併してできた町である。合併後に、将来、間違いなく町の人口が減少していくことを見越し、3代目となった現在の青野町長が多くの改革をしてきた。美咲町がひとつになれるものは何かと考えたときに「子どもを核にした義務教育学校」や「地域づくり」だという結論に達し、その実現に向けて次々に改革を断行したところに共感を覚えた。やはり子どもの教育は、国、地方自治体にはとても大切で、決して外せない課題だ。その上、子ども達に対しては、多くの大人が関心があるので、住民の意識もまとまりやすい。地域づくりでは、考える住民を育てるために小規模多機能自治を取り入れた着眼点のよさに

も感心した。

次の奈義町は平成14年に合併を行うかどうかの住民投票を実施し、合併しないことを決めた。自衛隊の駐屯地はあるのだが、近年、戦車隊などが駐屯しなくなり隊員は減少してきたようだが、合計特殊出生率は常に2を超えている。有効な少子化対策は何なのかを3つに絞り、それに向けて効果的な対策をピンポイントで打ち続けてきた。その結果が特殊出生率2超である。また、人口を維持するための方策の一つとして、安心して、誰でも、いつでも働ける場所として「しごとえん」を育てていったところも感心させられるものであった。中でも、乳児の頃から安心して子育てでき、たくさんの子育て保護者の輪が広がる仕組みづくりも大変素晴らしいと感じた。

最後の防災センターでは、知っていたつもりの大地震に関して再確認する場となった。やはり、阪神淡路大震災は、極めて恐ろしい地震であった。しかし、南海トラフ大地震は、さらに恐ろしい現実が起きることが感じられ、どのような方策をとればよいのか考えることはできていない。ともかく一人一人が、その災害で起きることを自分たちの頭で考え、自分たちで乗り越えないとどうにもならないことだけは確かなようだ。平時のように、国に頼り、市町村に頼ることだけでは済まされないようである。

5 視察の成果及び市政への反映等

(1) 子育て支援について

本市でも人口減少に対する取り組みはたくさん行われている。特に今回の移住者支援については驚くほどの成果を上げ、支援金の額を高め設定し過ぎたためか10年後に人口増をめざすという目標をわずか1年で達成してしまった。その後も増え続けているようなので、移住者にとっては、魅力ある支援金だと言えるのではないだろうか。また、子育てに対する経済的支援も他の市町村より充実している方だと思う。

あとは、経済的支援以外の子育て支援である。子育てに関する悩みの相談、他の子育て中の保護者との交流、イベント、一時預かり、親子でゆっくり過ごせる居場所としての機能を有する施設である。本市には、旧4町のうち3町には子育て支援センターがあり、旧市には、東部地域子育て支援センター「エンゼル」、子育て世代活動支援センター「プレピカ」がある。これとは別に一時預かりとして「ファミリーサポートセンター」があり、そのほかに「こども園独自」、「社会福祉協議会の下部組織」、「草の根的な個人や団体」などが支援センター的な活動をしているようである。

旧市における公設の「エンゼル」、「プレピカ」以外の施設では、どのような活動が行われているか正確には市では把握できていないため、子育て中の保護者は口コミで情報を集め、出かけて行っている状態である。市としてもそれらの情報を集めようとしているようだが、不定期だったりするためか、ホームページに掲載するまでには至っていない。また、どの施設も未就学児より上の子ども、例えば不登校で学校に行けない子どもや放課後をどこかで過ごしたい子ども等を受け入れることにはなっておらず、居場所がない状況である。やはり、旧市にも中学校区単位で、子育て支援施設が必要である。そこに、バラバラに行われている子育て支援活動を集約し、また、不登校児童生徒の居場所、放課後に帰宅した児童の居場所としての機能も兼ねさせればよい。立派な建物でなくてもごちゃまぜの子育て施設の方が来る者にとっては敷居が低くなると思う。

(2) 雇用対策について(働きたい人と手伝ってほしい人や企業とのマッチング)

本市でも様々な雇用対策をとっている。特に市役所の「移住・定住サポートセンター」や総合支

所、市民センター等で行っている「無料職業紹介事業」などは、奈義町の「しごとえん」と似たような仕組みになっており、雇用コーディネーターが間に入って、本人に合った仕事のマッチングを行っているようだ。ただ、移住者等の働く場を提供することを主としているため、「しごとえん」のように個人や企業からの一時的、短時間、軽微で簡単な仕事などには対応していない。隙間時間で働きたい人に対して、「しごとえん」で行われていたような「仕分け、パック詰め、書類修正、棚卸し補助、食品の真空パック、配本、農作業、墓掃除、伐採・剪定、草刈り、草取り、データ入力、デザイン、印刷代行、資料作成、アンケート・郵便物集計」などの軽微な仕事とのマッチングをはかる事業が展開できると、移住者ではない市民にとっても日々の生活が少しでも豊かになるのではないだろうか。

(3) 地域マネジメントについて

各地域において小規模多機能自治を作り上げる過程とその後の経過については今回初めて細部まで知ることができた。本市も15地区公民館単位で考えると、ちょうど人口13000人ほどの美咲町と同じ規模になる。(美咲町は、その人口で12の小規模多機能自治区があるので、本市では、15地区公民館をさらに細分化してもよい。)本市では、4年間で1000万円を地域の判断で活用してよいという地域活性化事業がある。これは地域課題を出した上で、計画を作成し、それに基づいて予算を執行していくことにはなっているが、その部分が不十分なまま進められているため、大切な予算が場当たりに執行されている場合がとて多いのではないだろうか。現状を知るために、地域住民にアンケートを採ったり、集計・分析してみんなで共有し、これからどうしていくかという計画を立てたり、組織を編成したりすることはなく、もちろんそんな場面に、地域の課題解決に詳しい市の職員が同席することもない。安全、安心、福祉、防災、教育等、地域にはたくさん解決しなければならない課題があるにも関わらず、今のところは、市にお願いするばかりの受け身の市民という状態である。大規模自然災害が起きる可能性が高まっている現在、市からは、いざというときに公助だけでは頼れないよという発信はあるが、考えることのできる市民にするという施策が欠けているので、このままでは非常時には右往左往する市民の姿しか見えてこない。

6 添付資料



奈義近代美術館



奈義町役場



人と未来防災センター

都城市議会議長 様

提出日 令和6年10月30日

氏名 岩元 弘樹

視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

令和創生 : 江内谷満義 別府英樹 楠見千穂子 岩元弘樹

2 視察先・テーマ及び日時

(1) 令和6年10月7日(月曜日) 14:10~17:00

岡山県美咲町役場 「人口減少に対する取り組みについて」

(2) 令和6年10月8日(火曜日) 9:50~11:00

岡山県奈義町奈義しごとえん 「官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について」

(3) 令和6年10月8日(火曜日) 12:50~15:30

岡山県奈義町役場、奈義町現代美術館・図書館、なぎチャイルドホーム
「少子化対策について」

(4) 令和6年10月9日(水曜日) 10:20~12:30

兵庫県神戸市人と防災未来センター 「大規模災害に対する備えについて」

3 視察の内容

(1) 人口減少に対する取り組みについて

- ・賢く収縮するまちづくり
- ・小規模多機能自治

(2) 官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について

- ・ひとづくり×しごとづくり

(3) 少子化対策について

- ・合計特殊出生率2.95の取り組み
- ・施設見学

(4) 大規模災害に対する備えについて

- ・阪神・淡路大震災の経験と教訓から防災・減災の取り組み
- ・施設見学

4 視察の感想

(1) 人口減少に対する取り組みについて

賢く収縮するまちづくりの一つとして、行財政改革に取り組んでいる。人口が減っても町の面積は変わらない。公共施設の町民1人当たりの床面積が全国平均の2倍以上あるため、必要なものは充実させつつ、町を人のあり方に合わせて集約、縮小していく。ハコモノ推奨から決別し、人口減少を正面から受け止めて町をつくりかえる考え方でいる。

(2) 官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について

なぎしごとえんでは、地域の困りごとを解決するため、草刈りや剪定、パソコン入力作業などを登録者に紹介して仕事を創出している。また、子育て中のお母さんも子育ての合間に子どもを見てもらいながら仕事ができる仕組みで活発に利用されている。

(3) 少子化対策について

奈義町は、平成24年に「子育て応援宣言」をし、令和元年に合計特殊出生率2.95%を記録している。

奥町長から、子育て支援と少子化対策は、高齢者が安心して最後まで暮らせる

町の維持のため、との信念のもと、町民に寄り添った施策を展開されているお話を伺った。

住む場所の提供として、若者住宅（40歳以下又は中学生までの子育て世帯を対象）の確保のため、町営住宅の提供や、賃貸住宅不足を解消するため、「民間賃貸住宅の建設」を助成、分譲地整備への補助も進められている。

奈義町役場での視察後に、隣接する美術館・図書館となぎチャイルドホームの施設を見学した。

（4）大規模災害に対する備えについて

阪神・淡路大震災で起こったことや、子どもたちに伝えなければならないことを見てもらう施設である。二度と再びこのような災害が起こらないように、いろいろな知恵や知識をわかりやすく発信して、災害に強いまちづくり、地域づくり、そして自身の準備に役立つ取り組みを行っている。

センターでは、貴重な展示物や映像から、当時の状況や取り組みを学ぶことができる。阪神・淡路大震災直後を原寸大で再現。当時の様子をリアルに体感できる。動画や語り部により、阪神・淡路大震災の経験と教訓を次世代に語り継ぐ。等の施設見学ができ、この日も他県から多くの学生が見学に来ていた。

5 視察の成果及び市政への反映等

（1）人口減少に対する取り組みについて

小規模多機能自治は、本市と同じ、まちづくり協議会が設置されており、美咲町でも13の協議会が地域運営組織として活動している。各地区の状況として中学生以上全員から、まちづくりアンケート調査を行って、地域住民の意見を知る活動をしている。補助金をくださいではなく、行政の縛りや条例を軽くしてほしいという意見が多く、「行政は、やってくれない」から「行政は、やらしてくれない」へと地域は変化していく。

地域が「元気だ」とか「明るい」、「力がある」と言われるのは、人口が多かったり、人口密度が高かったり、若い世代の比率が高かったりするからではなく、人「交」密度、つまり人の交わり（ひとづきあい）の密度が高いから。

(2) 官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について

「ちょっとだけ働きたい人」と「ちょっとだけ手伝ってほしい人」をつなぐ事業である、なぎしごとえん。雇用されるのではなく業務委託契約を結び、様々な仕事の中から自ら仕事を選び働ける。自分の大切にしたい“こと”“ひと”を大切にしながら様々な仕事に挑戦でき、成長もできる新しい働き方である。

(3) 少子化対策について

奈義町には多くの子育て支援策があるが、そのほとんどが議員提案だということ。議員が町民目線でしっかり提案し、町が耳を傾け政策として実現していく流れは見習うべきであり、そういった提案を市に対して行っていかなければならない。

また、子育て支援で最も大切なことは安心感だと担当者が話をされた。産んで、育てていく、また奈義町に帰ってきたいと思ってもらう、そういった流れになるよう政策に切れ目がなく、実際に合計特殊出生率2.95という数値にも成果が表れている。その瞬間の目先の問題の解決だけでなく中長期目線で、この地域をどうしていきたいのか、それをしっかりと住民に伝えて理解をしてもらえるか、そういった信念を持って地域のために政治を行わなければならない。

(4) 大規模災害に対する備えについて

自然災害事態をなくすことはできないため、被害をできるだけ少なくするために対策をする減災という考え方はとても大切である。当時の倒れた高速道路の柱や地面が歪んだところなど実際の被害の一部が残されているところや慰霊碑を見て、形あるものを通して災害について伝えていくことも大切である。同時に昔のことだから今は大丈夫と思ったり、復興したことばかりに目を向けていては、ま

た同じような被害が生まれてしまう。減災を実現するためにも被害に向き合い、何が原因でこのような被害が起こったのか、同じような災害が起こった時、そのようにならないために、普段からの防災や減災への取り組みとシミュレーションが必要かつ重要である。

6 添付資料

なし

都城市議会議長 様

提出日 令和6年10月24日

氏名 楠見 千穂子

研修報告書

以下のとおり研修の報告をいたします。

- 1 所属会派名
会派 令和創生
視察者 江内谷満義 別府英樹 楠見千穂子 岩元弘樹
- 2 視察先・テーマ・日時
 - 令和6年10月7日(月) 14時10分～17時00分
岡山県美咲町 「人口減少に対する取り組みについて」
 - 令和6年10月8日(火) 9時50分～11時00分
岡山県奈義町 奈義しごとえん
「官民連携で行う人材育成と新しい働き方の創造について」
 - 令和6年10月8日(火) 12時50分～15時30分
岡山県奈義町役場、奈義町現代美術館、奈義町立図書館
なぎチャイルドホーム
「少子化対策について」
 - 令和6年10月9日(水) 10時20分～12時30分
兵庫県神戸市 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
「大規模災害に対する備えについて」
- 3 視察内容
 - 岡山県美咲町は「見栄えの良い将来計画でなく、現実を見据えて賢く収縮する」まちづくりを視察した。公共施設を統廃合して複合施設を建設するは、議会の否決により頓挫し、職員の意識改革、庁内の部署編成も進めた。
小中学校を統合する義務教育学校は、児童生徒100人前後の小さな旭学園、2校目の義務教育学校柵原学園は、児童館、交流ホール、地元住民がボランティアで学習支援をする寺子屋的なスペースを併設、地域を挙げて子どもを応援する仕組みづくりを実施、子どもの学力向上に効果があった。
壊すだけでなく、必要なものはこじんまりと作る。合併特例債で老朽化の進んだ施設の解体撤去を実施し、公民館、図書館、保健センター等必要なものは、施設を3つ壊す代わりにこじんまりとした施設を一つ建設している。
物産館、社会福祉協議会、150人ほどのホールなどの複合施設の建物だった。 実際、図書館も閲覧調査を実施して、閲覧のない本は除き

蔵書の数ではなく、必要としている図書を購入しているこじんまりとした図書室だった。

また、図書館は静かに本を読むところではなく、子どもたちが集まる場所としても開放している。建設中の新庁舎も新しくつくられた複合施設 3 つは、ヨド物置のプレハブで仮設ではなく、費用面、解体のことも考えプレハブのヨド物置で建設していた。

また、観光では美咲たまごかけごはんを提供している「食堂かめっち」はたまごかけごはんを求め 100 万人以上が訪れている。

- 奈義しごとえんは、人口 6000 人を維持するための人づくりとまちづくりを実現するための 4 つの基本目標がありその目標達成の一つの手段として、「しごと」をつくり安心して働けるようにするため、奈義町が 1500 万円で委託している一般社団法人奈義しごとえんがある。

コンビニに行くように気軽に立ち寄り、様々な仕事があり自由に選ぶことができる。企業と個人が直接契約して、空いた時間に少しだけ働くをつなぐ事業である。

個人からは手数料 10% をもらい企業からはもう少し上乗せしている。

330 人の登録があるが実際は 40 人から 50 人の実働となっている。

シルバー人材センターを奈義しごとえんが兼ねている。

- 奈義町人口 5560 人(2024 年 4 月 1 日)、令和 6 年保育園 1、幼稚園 2 を統合してなぎっこ子ども園(定員 250 人)を整備、小学校 1 校、中学校 1 の建て替え完了

平成 24 年奈義町子育て応援宣言を行い、切れ目のない経済的支援を実施している。

- ・ 出産祝い金 10 万円保育料多子軽減
 - ・ こども園、小中学校の給食費の無償化
 - ・ 小中学校の教育教材費の無料化
 - ・ 高校生までの医療費無料
 - ・ 大学生に町独自の奨学育英金、卒業後に庁への定住で全額返済免除 8 年間で免除 10% 程度
 - ・ 特定不妊治療を受けた方に県の助成を引いた額の 1/2 以内で年額 20 万円を助成
 - ・ 在宅育児をする保護者に毎月 15,000 円の支援金(6 か月から 4 歳まで)
 - ・ 高校生への奨学支援として年額 240,000 円の支援金
 - ・ 中学 3 年生までの子どもを育てるひとり親に年額 54,000 円を支給、第 2 子以降は一人 27,000 円加算
 - ・ おたふくかぜ、インフルエンザなどの予防接種助成
- 町の一般会計予算約 50 億円のうち、子育て・教育支援単独事業費約 3 億円
(一般会計に占める割合 5 ~ 6 %)
- ・ 地域と行政につながる伴走型の産前産後のケア

園小中一貫校の中で英語が話せる子どもたちを育成
こども園 ALT3 名常駐

小学校 ALT 6 名常駐

中学校 ALT 3 名常駐

住環境の整備 町営賃貸住宅(満室) 81 戸

住環境の整備 分譲住宅の整備 87 区画 分譲率 100%

住環境の整備 空き家対策・新築・リフォーム促進

- ・ 奈義町空き家対策事業補助金
- ・ 新築・住宅リフォーム補助金
- ・ 空き家利活用補助金
- ・ 結婚新生活支援事業補助金

ナギギフトカード(多世代共生型菜ギフトカード)

○なぎチャイルドホーム(地域と子育て拠点施設)

子育てアドバイザーが常駐し、子育て相談、地域住民による子どもの一時預かり、親子向けのイベント、週 4 で通え、親同士が協力する保育活動、保護者と保育士が当番制で子どもたちの面倒を見ている。

○奈義町現代美術館

五感でアートが楽しめる体験型美術館で、建物と作品が一体化している特徴がある。SNS 映えすると全国区で話題を集めている。

○阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分淡路島北部を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生した。6400 名を超える人名が失われた。阪神淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減殺の実現のために必要な情報を発信する施設となっている。当時の災害直後の町の再現、防災グッズの展示、販売、映像による命を守る、逃げる、自分の命は自分で守る。

4 視察の感想

美咲町、奈義町ともに地域の問題を抽出し、役場が変わらないと町は変わらない。役場が変われば町は変わる。組織力強化のため職員の意識改革、組織編制等を実施して人口減少を少しでも遅らせるように、子育て支援に邁進していた。

見栄えの良い将来計画ではなく、現実を見据えて賢く収縮する現状を視察した。

公共施設は維持管理費がかさむため、統合廃止を訴え住民説明会を実施して住民の理解を求め続け、現在も住民説明会は実施している。住民と行政の距離が近くなり出向く行政、顔の見える行政の必要性を積極的に進め、町外出身の職員が増え、住民が職員のことを知らなかったり、業務に追われ地域に出向くことが少なくなったのは出向く行政、顔の見える行政が薄れてきていると見直しを図ることも現実重視と受け止められた。

町の施策については地域に出向き説明する出前講座も 84 のメニューがあるようで、人口 13,000 人ほどの町の出前講座に 84 のメニューがあるのには、

職員のやる気があり真に受け止め、町の施策を説明する住民説明会が実際に行われていると感じた。

また、人口減少に備えて、未来に負の遺産を残さない、人口が減っても町の面積が減るわけではない、人口減少に見合った町にしていくことには納得できた。

必要なものは残し、ヒト、モノ、カネの資源を次の世代へと投資していく仕組みを作っていかなければ町は生き残れない、行政としてのフルセットのサービスは難しいと考えられている青野高陽町長に感心させられた。

きっと、後世に生き残るまちづくりを残されると思われる。

5 視察の成果及び市政への反映

本市は、移住促進事業に莫大な費用をかけて他市町村から住民を移住させている。他の市町村も人口減少には対策を立てているが、移住一人100万円の魅力にはなすすべがないのか。

お金につられ、故郷を離れ、馴れ親しんだ地域を離れ、仕事を辞めて移住してきた方がどれだけ都城に定着していただけるか追跡調査は郵便物の配達などではなく、個別訪問を実施して確認することは出向く行政として重要と考える。

途中で都城市を離れられた場合は、移住促進費の返還が必要となるが、支払い能力がない場合は不能欠損として処理してしまうのか。

追跡調査を徹底して請求し続けるのか。不透明のままではいけないと思われる。

ヒト、モノ、カネを大切にしない行政は、果たして後世に残せるものがあるだろうか。

本市の道の駅ニクルの看板に数千万の予算計上があったが、美咲町は3つの複合施設を18億円で建設中である。3つの施設に美咲町役場の庁舎、図書館、直売物産館、保健センター、公民館が多世代交流拠点施設になり、図書館、成人式ができる小規模ホール、社会福祉協議会など複合施設が建設されていた。ヨド物置のプレハブ住宅ではあるが10年おきにメンテナンスを実施すれば雨漏りもせずに耐久性はあり十分 50年は持つようである。

新庁舎は一人のスペースが狭くペーパーレスで書籍棚は置かない、机も幅90cmと小さくなり、椅子も入れられるか不透明との説明があった。職員の意識改革も徹底していると考ええる。

ただ、雨の音が大きいのが難点のようである。

「住民の生活を守る、複数の施設を統合し必要なものは残す、さらに充実させる」 美咲町の合計特殊出生率2.23、奈義町令和元年2.95を記録している。

本市の出生率は年々減少し続け、移住促進事業で向上しているようであるが、本市の子育て事業と合わせ出生率をどのくらい向上できるか、全国から注視されているような気がする。

奈義町では3人以上の子どものいる家庭は半数以上を占めている。本市と何が違うのか行政も、議会も考える必要がある。

美咲町、奈義町では町民へ行政が約束する、町民へは正直に嘘を言わない、安心感と心強さを町民へ感じるようにしていることが重要である。

本市の市民にも行政に対して、安心感と心強さを感じてもらえるような市政にする必要があると考える。

8 添付資料

- ・なし